

総合計画体系	政策名	IV ふるさとを愛し豊かな心を育む教育と文化のまちづくり《教育・文化》	施策主管課	社会教育課
			施策統括課長	小川 浩
	施策名	24 生涯学習の推進	関係課	地域振興課,学校教育課

1. 施策の目的と指標

目的	①対象(誰、何を対象としているのか)		対象指標	単位	区分	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
	市民	A	人口	人口	人	実績	42,428	41,917	41,159		
見込								41,159	41,032	40,650	40,323
実績											
見込											
目的	②意図(どのような状態にするのか)		成果指標	単位	区分	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
	生涯を通じて、人生を豊かにするために学ぶ。	A	生涯学習活動を行っている市民の割合	%	実績	35.6	39.6	34.2			
目標						(35)	36.0	37.0	38.0	39.0	
実績											
目標											
成果指標設定の考え方(成果指標設定の理由)			生涯を通じて人生を豊かにするために学ぶ状態とは、日頃から学習活動を行っている状態であると考えた。								
成果指標の測定企画(実績値の把握方法)			市民アンケート調査で把握「あなたは、自らの教養を高めるために日頃から学習活動を行っていますか？」								
目標設定とその根拠(基本計画策定時)			A)日頃から学習活動を行っている市民の割合 成り行き値は、近年の傾向から同程度で推移すると考える。目標値は、社会教育コーディネーターや地域自主組織生涯学習部の取り組みなどで意識向上を促し、毎年1ポイント上昇させる。								

2. 基本事業の目的と指標

基本事業名	対象	意図	成果指標	単位	区分	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
① 学習機会の提供	市民	学習の機会を確保する。	市民大学講座・出前講座の回数、参加者数	回・人	実績	9・333 85・1687	9・316 62・1428	6・116 253・6646			
② 学習環境の充実	市民	充実した施設・設備を利用できるようにする。	生涯学習環境が整っていると感じている市民の割合	%	実績	46.7	38.9	43.1			
③					実績						
④					実績						
⑤					実績						

3. 施策の役割分担と状況変化

① 役割分担	住民(事業所、地域、団体)の役割	行政(市、県、国)の役割
	●自ら進んで学習に取り組む。	●市民の学習を支援するための積極的な情報提供など、学習環境の充実に努める。
② 状況変化	A) 施策を取り巻く状況(対象や根拠法令、社会情勢等)は、今後どのように変化するか?(本年度を見越して)	B) この施策に対して、住民(対象者、納税者、関係者)、議会からどんな意見や要望が寄せられているか?
	○高度情報化社会の進展により、インターネットを利用した生涯学習の取り組みが増えている。 ○経済情勢など社会状況の変化が生活や心のゆとりの面から、住民の取り組み意識に影響する。	○地域自主組織(交流センター)における生涯学習活動の確実な担保を市議会から求められている。

4. 施策の成果水準の分析と背景・要因の考察

他団体との比較(近隣市町、県・国の平均と比べた成果水準)	
<input type="checkbox"/> 近隣他市と比べてかなり高い水準である。 <input checked="" type="checkbox"/> 近隣他市と比べてどちらかと言えば高い水準である。 <input type="checkbox"/> 近隣他市と比べてほぼ同水準である。 <input type="checkbox"/> 近隣他市と比べてどちらかと言えば低い水準である。 <input type="checkbox"/> 近隣他市と比べてかなり低い水準である。	背景・要因 ○H23年度県政世論調査によると、島根県全体の生涯学習に取り組んでいる人の割合は、30.5%であり、雲南市は34.2%と、やや高い水準にある。

平成24年度施策マネジメントシート2(平成23年度実績の評価)

《24 生涯学習の推進》

4. 施策の成果水準の分析と背景・要因の考察

時系列での比較(成果水準の推移)	
<input type="checkbox"/> 成果がかなり向上した <input type="checkbox"/> 成果がどちらかと言えば向上した <input checked="" type="checkbox"/> 成果はほとんど変わらない(横ばい状態) <input type="checkbox"/> 成果がどちらかと言えば低下した <input type="checkbox"/> 成果がかなり低下した	背景・要因 ○生涯学習活動を行っている市民は、前年に比べると約5%減少しているが、H21年度から比較すると概ね横ばいと判断する。これは、H22年度については交流センターの発足による増加が考えられる。

5. 施策の振り返り評価

施策の目標達成度 (前年度の成果指標値に対する実績値の達成度)	
<input type="checkbox"/> 目標値より高い実績だった <input checked="" type="checkbox"/> 目標値どおりの実績値だった <input type="checkbox"/> 目標値より低い実績値だった	背景・要因 ○生涯学習を行っている市民の割合は、目標値には1.8%達していないが、概ね目標値どおりと判断する。

基本事業	取り組んだ事務事業の総括 (事務事業貢献度評価:貢献した事務事業、課題が残った事務事業)
① 学習機会の提供	・派遣社会教育主事による社会教育コーディネーターの指導支援により、地域との連携推進を図る人材の育成に寄与することができた。 ・地域自主組織で行う生涯学習活動に対し、地域づくり担当職員の支援や、交付金の交付により支援を行った。・国際文化交流会事業では、小中学生を対象とした英語スピーチコンテストや早稲田大学留学生の受け入れ等を行い、国際的視野をもつ市民への学習機会の提供に役立った。
② 学習環境の充実	・図書館業務を委託したことにより、文化施設等との連携も生まれ、利用者の利便性が高くなり、サービスが向上した。 ・木次図書館の太陽光発電システム及びLED照明化により、利用者への環境教育を行った。
③	
④	
⑤	

6. 今後の課題と次年度の方針(案)

区分	今後の課題	次年度の方針(案)
施策	○学校・家庭・地域による学社連携、融合を推進していく必要がある。 ○地域自主組織との情報交換に努め、交流センターを拠点とする生涯学習活動を支援していく必要がある。	○学校・家庭・地域による学社連携、融合を推進していく。 ○地域自主組織との情報交換に努め、交流センターを拠点とする生涯学習活動を支援していく。
基本事業	① 学習機会の提供	○地域自主組織に対する情報の提供や人材育成を支援していく。 ○図書館の貸出冊数増加や利便性の向上につながるサービスの提供を目指していく。
	② 学習環境の充実	○交流センターなどの生涯学習施設を適正に管理していく必要がある。 ○地域自主組織などの生涯学習施設管理者との連携を図り、施設の状態を的確に把握する。 ○必要に応じて、計画的に修繕等を行っていく。
	③	
	④	
	⑤	